

自己点検・自己評価報告書

2022年3月31日現在

学校法人西田学園 アルファ医療福祉専門学校

2022年3月31日作成

評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1			
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	④	3	2	1
学校における職業教育の特色は何か	4	③	2	1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	③	2	1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4	③	2	1
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	③	2	1

①課題

学校の将来構想が社会のニーズにマッチしているかどうかについては、外部的な評価をされていない面があるため、実習施設を中心とした関連施設、関連業界との連携をさらに強化するとともに、引き続き業界の動向や情報収集の把握に努める必要がある。

②今後の改善策

職業教育の特色については、学生・保護者等への周知が十分とは言えず、保護者会、配布物、インターネット等による周知の機会を増やしていく。

(2)学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1			
目的等に沿った運営方針を定めているか	④	3	2	1
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1
人事、給与に関する規程等は整備しているか	4	③	2	1
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	②	1
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

①課題

「情報システム化等による業務の効率化が図られているか」については、教務システムを十分に活用しきれておらず、生徒情報等の管理のために活用を強化していく必要がある。

②今後の改善策

教務課を中心に、教務システムの機能を見直し、活用状況の改善を図っていく。

(3)教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1			
教育理念等に沿った教育課程の編成方針・実施方針が策定されているか	④	3	2	1
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に 対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等が実施されているか	④	3	2	1
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	3	②	1
関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	②	1
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

①課題

業界団体との連携によるカリキュラムの見直し等については、教育課程編成委員会の委員からの意見を取り入れているが、十分とは言えない。

②今後の改善策

教育課程編成委員会以外にも、関係団体の連携を取る機会を設けてカリキュラム等の見直しを図っていく。

(4) 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1			
就職率の向上が図られているか	4	③	2	1
資格取得率の向上が図られているか	4	3	②	1
退学率の低減が図られているか	4	3	②	1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	②	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

①課題

令和3年度の退学者数は前年に比べて減少したが、退学者を低減させるためにさらなる強化策が必要である。資格取得率は学科によって差があり、国家試験対策の見直しが必要である。

②今後の改善策

退学者数の低減については、退学理由の分析を行い、学校の教育活動の改善を行うとともに、クラス担任や学生相談室の支援体制を強化していく。

(5) 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1			
進路・就職に関する支援体制を整備されているか	④	3	2	1
学生相談に関する体制は整備されているか	4	③	2	1
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	③	2	1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	②	1
学生に対する経済的な側面に対する支援体制を整備しているか	4	3	②	1
学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	②	1
保護者と適切に連携しているか	4	3	②	1
卒業生への支援体制はあるか	4	3	②	1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	②	1

①課題

保護者との連携については、成績不振者や出席不良の生徒に関しては特に、保護者との連携は重要であるが、十分に連携できているとは言えない。

②今後の改善策

柔道整復学科とはり・きゅう学科は、1年生の保護者会を開催するなど、保護者との連携への取り組みを始めている。ただし、学生指導におけるクラス担任の役割は大きく、担任がどのように保護者と連携を強化していくかについて改善していく。

(6)教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1			
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1
学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1

①課題

防災設備については、各校舎の設備状況の点検を強化していく必要がある。

②今後の改善策

防災設備については、老朽化している箇所の補修を随時行っていく。

(7)学生の募集と受入れ

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1			
学生募集活動は適正に行われているか	④	3	2	1
学生募集活動において、教育効果は適切に適切に伝えられているか	4	③	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

①課題

入学選考結果を入学後の学力判断資料とし、教務システムで情報共有しているが、学生への指導に十分に結びつけられていない。

②今後の改善策

教務システムで登録されている各学生の情報を共有し、学校生活の継続に難がある学生は特に、担任だけでなく学科全体でフォローをする仕組みを検討していく。

(8)財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1			
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

①課題

安定して入学者を確保できており、短期的な財政基盤は安定している。中長期の財政基盤を安定するためには、退学者のさらなる抑制を図ることが重要である。加えて、予算の見直しや効率化による経費削減に努めていく必要がある。

②今後の改善策

中長期的に財政基盤を安定させていくために、予算配分を見直しをおこなう。収入は通学制の学生募集だけではなく、収益事業等での収入を増加させることで財政基盤の更なる改善を図っていく。

(9)法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1			
法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な運営がなされているか	④	3	2	1
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	③	2	1
自己評価結果を公開しているか	4	③	2	1

①課題

「自己評価の実施と問題点の改善を行っているか」について、改善されている点もあるが、継続的に課題となっている項目もあり、改善に向けた方針を明確にする必要がある。

②今後の改善策

継続的に課題となっている項目については、改善できる仕組みを検討していく。

(10)社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1			
学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2	1
学生のボランティア活動を奨励し、支援しているか	4	3	2	①
地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	④	3	2	1

①課題

ボランティア参加を希望する学生は一定数いるが、限られた修業年限の中でボランティア参加と学業の両立が難しく、施設からの要望に応えきれしていない。

②今後の改善策

ボランティア参加は将来の就業に際しても有益であると考えている。学校全体としてボランティア参加を促進する環境整備が必要である。